

水道情報活用システム導入支援事業（山陽小野田市水道局）

- 令和6年より、水道料金システム、財務会計システム、マッピングシステム、施設台帳システムを導入する。
- 当該事業を通じて、更新需要の適正な把握を図るとともに、詳細なアセットマネジメントによる施設更新計画の策定に向けて各データの利活用を図る。

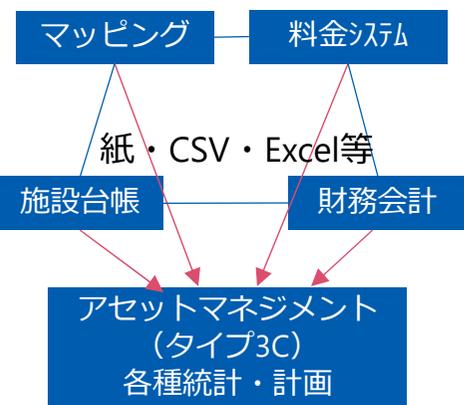
事業概要

- ・ 事業期間：令和6年～令和9年
- ・ 実施個所：山陽小野田市全域
- ・ 事業概要：水道標準プラットフォーム及び水道施設台帳システムの導入を図るとともに、水道料金システムと財務会計システム、マッピングシステムを導入し各システム間連携を行う。

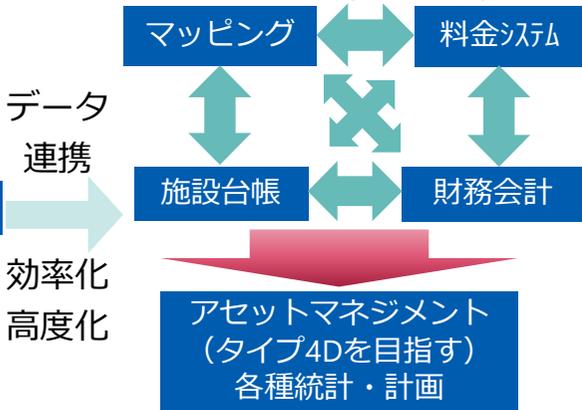
導入により目指す業務効率化

- ・ 現在は一部紙で管理している水道設備台帳を電子化することで、必要な図面を迅速に閲覧でき、組織内のデータの共有化が図られる。
- ・ 標準化されたデータによるアプリケーションの導入により、以降のバージョン変更の伴うアプリケーション更新の際には必要なデータ移行費用など削減が図られる。
- ・ これまで各システム間の連携をする際は、紙・CSV・Excelなどを利用し他のシステムにデータの反映をしていたが、水道情報システムを活用することにより、標準化されたデータの為、バージョンが異なるアプリケーションとの連携も容易になることが考えられる。
- ・ データの高度化に伴い、アセットマネジメント（タイプ4D）に向けて取り組みを進める。

Before(各自サーバ)



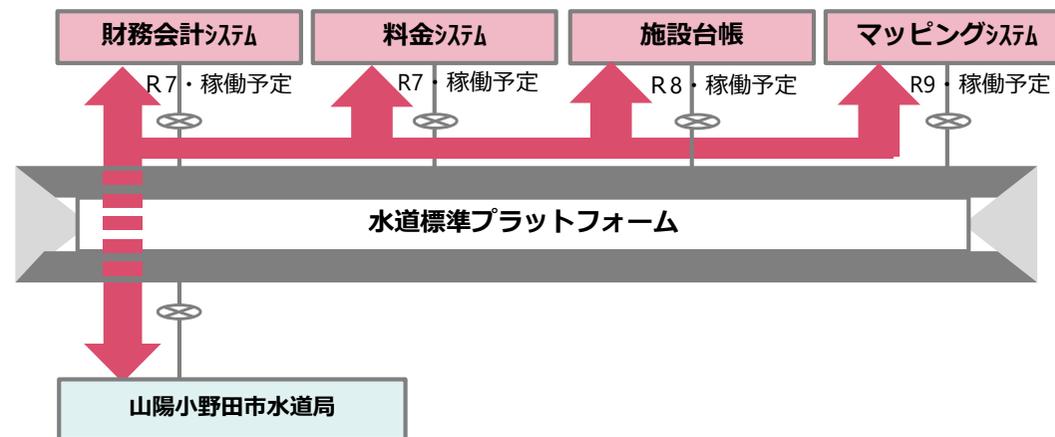
After(クラウド)



データ
連携
効率化
高度化

具体的な連携の内容

- ・ 財務会計、料金システム、施設台帳、マッピングシステムを水道標準プラットフォーム上で管理し、各システムで集約したデータ連携を図りそれぞれで行っていた作業の一元化を図る。
- ・ これらの連携により、より高度な修繕・更新のデータを集約し、より効率的なメンテナンスサイクルの構築と新設・更新費用の最適化を図り、将来の更新費用削減に向けた計画を策定する。



データの利活用・付加効果

- ・ 水道標準PFにデータを管理しているため、災害等の緊急時において水道局庁舎が被災しても、クラウドにより他の庁舎で災害後の対応が可能となり、迅速な復旧を目指すことが出来る。
- ・ 各システム間データを連携することにより、入力・確認作業の削減を図る。
- ・ 料金システム⇔マッピング 水量データ等の連携を図り、管末の流量把握を行い、管路のダウンサイジングに向けた対策を図る。
- ・ 施設台帳・マッピング⇔財務会計 資産管理とのデータ適合や各資産別の詳細な把握を行うことにより、アセットマネジメントの精度を高める。
- ・ 連携により施設や管路の情報量が飛躍的に増えるため、短時間に正確でより細やかな日常業務および事故対応等の突発的な業務の処理が可能になる。
- ・ 今後の広域連携によるシステム統合の際には、標準化されたデータにより保存されているため、移行に係る経費の削減やタイミングの調整が容易になる。

問合せ先

山陽小野田市水道局総務課企画調整班
TEL:0836-83-4111 / Email: suido-soumu@city.sanyo-onoda.lg.jp